

会 議 要 旨

会 議 の 名 称	令和3年度 第2回川越市文化財保存活用地域計画策定協議会
開 催 日 時	令和4年2月14日(月) 午後2時 開会 ・ 午後3時30分 閉会
開 催 場 所	4A会議室
議 長 (会 長)	落合座長
出席委員(人数)	栗原副座長、原委員、中村委員、大久根委員、守山委員、根岸委員、 栗岡委員、土屋委員、阿部委員(代理出席)、福釜委員、田中委員 (座長含め12名)
欠席委員(人数)	(0名)
傍 聴 者	0名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1回川越市文化財保存活用地域計画策定協議会(11/1開催)について (2) 「発見!たかしな遺産めぐり講座」について (3) 文化庁との協議について 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 川越市文化財保存活用地域計画の構成について 歴史文化―関連文化財群―文化財保存活用区域の枠組みについて 4 その他 5 閉会
そ の 他	

議事の経過

報告

(1) 第1回川越市文化財保存活用地域計画策定協議会（11/1開催）について

（事務局より説明）

- ・ 前回協議会内容を説明。

(2) 「発見！たかしの遺産めぐり講座」について

（事務局より説明）

- ・ 地域の人に、地域の文化財や歴史文化を身近に感じてもらうために当講座を開催した。
- ・ 全3回の講座を高階公民館で行った。
- ・ 参加者は60代から70代ぐらいが多かった。
- ・ 3回目には、地域の方が地域にとって大事な歴史遺産を挙げる、グループ討議を行った。
- ・ 地域にとって文化財ニーズはあると感じられた。今後も地域の方と共に文化財保護の意識を高めていきたい。

【意見・質疑応答】

○文化財や歴史文化を身近に感じる趣旨であれば、若い人も参加できるような取組を検討すべき。例えば、高校生であれば、地歴部などに参加してもらい、地域の歴史を調べる発表会を開催するのはどうだろうか。

（回答）検討する。

○「文化財」という用語は、行政側が与えた価値のようにイメージしてしまう。何か違う言葉を使った方がよいのではないか。

○地域の人が自分たちにとって価値があり、自慢できるものだとイメージできる言葉を使用した方がよい。例えば「歴史遺産」や「文化遺産」など。

（回答）「文化財」ではなく「歴史遺産」という言葉を使っていきたい。

(3) 文化庁との協議について

（事務局より説明）

- ・ 令和5年8月までに川越市文化財保存活用地域計画を文化庁に提出。その後他の省庁で審議を行い、令和5年12月認定予定というスケジュールを文化庁と情報共有した。
- ・ 関連文化財群と活用保存地域は市町村で設定するもので、その目的に応じるのであれば両者が一致しなくともよい。
- ・ 歴史文化や関連文化財群として挙げた名称は、川越市だとわかるような名称に変更した方がよいと指摘を受けた。
- ・ 防災防犯対策は、文化財保存活用地域計画に入れるよう指導を受けた。

議事

(1) 川越市文化財保存活用地域計画の構成について

（事務局より説明）

- ・ 前回協議会後に各委員から構成について提案があった。今回はその提案について議論したい。
- ①川越市の歴史文化をムラ・マチ・ミチの3類型で分類していたが、マチ・ムラ・ミチと順番を変更する意見が、委員から提案された。

②災害からの復興をテーマにした関連文化財群を、委員から提案された。

【意見・質疑応答】

①川越市には「小江戸文化」があり、この計画では、マチの文化にあたるだろう。現在の川越市では「小江戸文化」のイメージがあるので、マチ・ムラ・ミチの順番でよいのではないか。

②中世に入間川の水害により河越館が被災したことや、明治時代の大火で川越町が焼けたことがあったが、権力だけではなく住民の力もあり、その度に川越は復興してきたと考えられる。そうしたサイクルが川越に蓄積されている。関連文化財群のテーマの一つとして検討してほしい。

(回答) ①マチ・ムラ・ミチの順番で川越市の歴史文化を分類する。

②復興をテーマにした関連文化財群を設定する。

・次回はアクションプラン（課題－方針－措置表）を検討予定とする。

その他

(事務局より説明)

・本協議会委員である守山委員が、川越市の都市景観賞を受賞した。

・「かわごえ文化財通信」を創刊した。川越市ホームページで閲覧可能。

この通信は文化財保存活用地域計画の趣旨や進捗状況を、市民に向けて作成した広報紙である。今後も発刊を予定している。